

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0190501908		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	グループホームライブラリ月寒中央Ⅱ		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条9丁目1番10号		
自己評価作成日	令和3年12月2日	評価結果市町村受理日	令和4年6月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501908-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和3年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が穏やかに生活できるように、職員一同日々の介護業務に取り組んでいる。
 入居者の体調不良にも迅速に対応できるように医療機関・看護師との連携が構築されている。
 事業所内外の研修にも力を入れ、より良いケアの実践に繋げている。
 入居者の身体機能・認知機能を維持できるよう、様々なアクティビティを選択可能なように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、2019年10月1日に札幌市豊平区的美園地区から現住所に新築移転したグループホームである。建物の構造は、全3階建てで1階と2階は同法人のグループホームで、3階は会議室と職員の休憩室、看護師の事務所がある。当事業所は、2階の2ユニットのグループホームで、地下鉄東豊線月寒中央駅から徒歩圏内、近隣にスーパーやドラッグストアなどがある利便性のよい地区である。運営法人は、札幌市を中心に関東地区や東北地区に認知症高齢者グループホームや有料老人ホーム、居宅介護支援事業所などの介護事業、障がい者相談支援や就労支援B型事業所などの障がいサービス事業、保育事業など幅広く展開し、店頭公開したグループ会社で、培った経験を運営に活かしている。ホーム内は、エレベーターで2階に上がると、正面にユニットの玄関があり、左側には相談室を設置している。事務所を挟んで左右それぞれユニットが配置されており、居室は、単独の個室と8つの個室が繋がっている構造で、採光や風通しもよく、「和」のテイストを取り入れた落ち着いた室内環境である。コロナウイルス感染拡大の影響により、地域との繋がりは深められていないが、これからの期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し、朝礼時に理念の唱和を行っている。 理念に基づいた行動を出来ているか個人面談の際に改めて確認し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため町内会長も地域運営推進会議に出席は出来ていないが文書でのやり取りは密に行って繋がりを保っている。 今後、地域との交流を図れるよう運営推進会議の議題にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	移転後は、その後のコロナ禍の影響もあり、資源回収の協力程度に留まっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により参加はアンケートなど文書での参加のみになっているが、その結果以前より多くの人からの意見を集めることに成功しており、意見などを職員へ伝えるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区や市など必要に応じ、様々な相談を行っており、助言をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待など様々な視点で毎月、研修を行い全職員に資料配布し意見を出してもらう等周知している。夜間においても玄関以外の施錠はせず、拘束に当たらないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修も行うが「もしかしたら」と思ったものは職員同士でも都度話し合い、内容によっては会議の議題として取り上げている。 また、入浴時にも身体チェックを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついていらっしゃる入居者様も、年々増えており職員が直接関わる機会が増えてきているので内部研修として行い今後に活かせるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には最低2時間かかることを伝えたくえで日時を調整し行っている。 内容変更の際などもお手紙を併せて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様よりいただいた意見や相談は管理者へ報告徹底している。 必要に応じ職員会議にも反映させ、話し合う機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に1度個人面談を行い、職員意見を聞き、働きやすい環境作りに努めている。希望休や有休も取得数を把握し取得し易くしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談後に基本給を上げたり、次回面談までの目標を立てることで向上心に繋げている。 他に、日々の悩みや業務の見直しについて意見を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護未経験者は社内で行っている研修に無料で受講して資格取得して頂いている。他に知識や技術向上のための研修への参加を全職員へ通知しスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修はコロナ禍のため参加していないので、その分、社内主導の研修の機会を増やしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談段階でしっかりと聞き取りを行い、ご本人やご家族様が不安を抱かないよう配慮している。 また、入居間も無い方へは会話を密に行い希望に添えるよう職員間で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約日前後や入居間もない頃はこまめに連絡。来訪時には入居者様の近況報告し、不安要素の聞き取りを行いより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定時の情報収集をしっかり行い、職員間で話し合う機会を作っている。生活環境や身体の状態を把握し、必要とされる支援を見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ADLの状態を観察し、本人のニーズを把握、検討し見落としのないサービスを行っている。職員は入居者様と共に過ごし会話の機会を増やし支え合う関係を築き一方的な支援にならないように注意している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に預けたからといって全てを職員が行うのではなく一緒に利用者様を支えましよう面談時お話ししている。現在コロナ禍のため、制限を設けている箇所はあるが相談を気軽に話していただける雰囲気作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍のため面会時間等に制限はあるが電話など入居者様の要望があれば可能な限り対応している。馴染みの場所の利用も今後できるよう検討している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人きりになったりトラブルが起きないように見守りや仲介をしながら、行事やレクリエーション、お手伝いなど楽しい雰囲気で行って頂けるよう対応している。また、座席の配慮も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても関係性を大事にし、相談に応じられるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様に寄り添う姿勢を大切にし、日常会話や様子から得た情報は職員間で情報共有し解決できるよう取り組んでいる。また、その情報はすぐに上司へ報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に提出して頂く書類や、ご家族や入居者様に伺い、変化の過程など把握するよう努めているが、日常はフェイスシートで確認している。また、その情報をサービス提供に生かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常会話や様子から把握し変化がある場合は業務日誌や記録、申し送りなどで職員間での情報共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族とも話し合いケア会議などでアセスメントをしっかり行いモニタリングの結果からケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を毎日記録し、変化・様子を把握する。申し送りで職員間の情報共有や交換、計画の見直しなど行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や訪問マッサージなど、個々に合わせたサービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍のため町内会行事やホームのイベントへの招待は制限している。 人ごみを避け近隣の大きな公園へ散歩に出かけたり、買い物に徒歩で外出することもある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様にも同意をいただき、メインの訪問診療提携医療機関は移転に併せて変更し、医療的相談もし易くなり、都度連絡することにより迅速な対応をしてくだっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で生まれた気づき、職員・看護師・管理者間で情報共有し適切な対応が行えるよう対応している。体調の変化があった際は24時間で看護師が対応、指示を仰げる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関とは随時相談可能である。入退院の際も病院からホームとご家族双方に調整の連絡をくださる。担当医と管理者は直接電話やメールでやり取りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族様の意思を尊重し、医師・看護師と十分に話し合い結果の情報を共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修に必ず盛り込み実践を交えて取り組んでいる。日頃の急変以外にも夏場の感染など看護師指示のもと必要に応じマニュアルも更新している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備し、火災だけでなく地震や水災害など研修を通し周知している。訓練の度に環境にあった方法の見直しを行っている。地域との協力体制は今後予定している。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の好まれる関わり方を意識し、入居者様の尊厳を守れるよう職員間でも都度声掛けしあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伝えたいことをくみ取ったり、日常会話の中で思いを伺えるような内容になるような選択肢を増やした会話を増やすよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ひとりひとりのペースに合わせて、自由に過ごせるよう声掛けするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選んだものの感想を伝えたり、自身で出来ない方には髪をたく・結ぶなどお手伝いしている。また、化粧品やネイルの対応もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き、季節メニュー等を取り入れ、お伝えし楽しんで頂けるようにしている。調理や盛り付け、食器洗いや食器拭きなども本人の役割として意識してもらおうことでやりがいを感じて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は常に記録し、栄養が偏らないようメニュー管理されている。医師・看護師に相談し食事形態や栄養補助飲料なども都度検討している。水分摂取の進まない方にはゼリーを作る等での対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔を保っている。歯科往診や衛生士による口腔ケア時に情報交換や指導をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常様子観察し、体操が効果的な人へは体操の支援をするなど個々に合わせた排泄誘導やタイミングで声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操もするがヨーグルトやオリゴ糖を使用し、薬に頼らないよう支援している。それでも便秘がちな方は下剤など使用し、溜まりすぎないように都度看護師の意見を聞くなどし対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	希望される方には浴えるよう対応しているが、基本的な時間は設定することで、ご自身で準備可能な方に事前準備出来るよう声掛けしている。また、その方の状態により回数を増やして入浴支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に、日中も居間で傾眠傾向が見られればベッドでの休息を声掛けするなど本人の体力に合わせ生活習慣に沿って休息をとっていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所の特性を生かしWチェックの徹底を行い服薬チェック表を活用した服薬管理を行っている。薬剤情報もすぐに確認できる状況にし、症状の変化など看護師に相談できる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の様子、会話より会議で本人の可能性を職員間で検討し、モニタリングを通しながら楽しく過ごし意欲が出るよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍のため頻度は減っているが状況次第によりマンツーマンで買い物に出掛けたり、大きな公園まで出かけるなど可能な限り対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様希望により小遣いとしてお預かりしているものは管理者が金庫保管している。レク時に仮想通貨を使用したりお金の大切さを忘れないように工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温・室温・湿度にも注意し、快適な落ち着いた生活空間を心掛け動線の確保にも工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員間で情報を共有し、性格・行動を配慮し気の合った入居者様同士楽しく過ごせるよう座席を変えたり工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は動線の確保を考慮し使い慣れた家具や小物を持ち込んでいただき可能な限りご自由に使用して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所をわかり易くする工夫をしている。家事のお手伝いも行いやすいよう配慮し配置している。		